



館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 10 月 10 日 (金)

発行 館長 加藤 智 一

マンデラ効果

「マンデラ効果」とは、「実際には起こっていない出来事や事実」を、多くの人が「確かにそうだった」と記憶している現象を指します。この言葉は、南アフリカの政治家ネルソン・マンデラ氏に由来しています。彼が 1980 年代に獄中で亡くなったと記憶している人が世界中に多数存在したことから、この現象が「マンデラ効果」と名付けられました。実際にはマンデラ氏は 1990 年に釈放され、1994 年から 1999 年まで南アフリカの大統領を務め、2013 年に亡くなっています。このような「集団的な記憶違い」は、単なる個人の勘違いとは異なり、社会的・文化的な背景や情報の伝播によって形成されることが多く、記憶の不確かさや脳の情報処理の限界を示すものとして、心理学的にも興味深い現象とされています。その実例をいくつかご紹介しましょう。

実例①「ピカチュウの尻尾の色」

人気アニメ「ポケットモンスター」のキャラクター、ピカチュウの尻尾についても「マンデラ効果」が報告されています。多くの人が「尻尾の先端が黒かった」と記憶していますが、実際にはピカチュウの尻尾は黄色で、根元に茶色の模様があるだけです。この誤認は、ピカチュウの耳の先端が黒いために、視覚的な混同が起きた可能性があります。また、グッズやファンアートなどで誤った描写が広まったことも、記憶の形成に影響を与えたと考えられます。

実例② 白雪姫の「鏡よ、鏡よ」

ディズニー映画『白雪姫』の魔女が鏡に語りかけるセリフとして、「鏡よ、鏡よ、世界で一番美しいのは誰？」（英語では “Mirror, mirror on the wall…”）と記憶している人が多いですが、実際のセリフは “Magic mirror on the wall…” です。この誤認は、童話や絵本、他のメディアで “Mirror, mirror…” という表現が使われていたことが原因と考えられます。繰り返し聞いた表現が記憶に定着し、実際の映画のセリフとすり替わってしまったのです。

実例③ キットカットのロゴにハイフンがある？

チョコレートブランド「キットカット (KitKat)」のロゴについて、「Kit-Kat」とハイフンが入っていたと記憶している人が非常に多くいます。しかし実際のロゴには、ハイフンは存在しません。最初からずっと「KitKat」という表記なのです。

実例④ パンダの尻尾は黒い？ 白い？

ジャイアントパンダの尻尾の色について、黒いと思っている人が多いです。実際には、パンダの尻尾は白いのです。体の他の部分は白と黒のツートンカラーですが、尻尾は白一色なのです。この記憶違いは、パンダの他の黒い部分（耳や目の周り、手足）との混同が原因かもしれません。

実例⑤ ジュリアナ東京はバブル時代の象徴？

1990 年代前半に話題になったディスコ「ジュリアナ東京」について、バブル時代の象徴として記憶している人も多いでしょう。しかし実際には、ジュリアナ東京がオープンしたのは 1991 年 5 月で、これはバブル崩壊後のことでした。バブル経済は 1991 年 3 月頃に崩壊したとされているので、ジュリアナ東京はバブル後の現象だったのです。

このような「マンデラ効果」はなぜ起こるのでしょうか？「マンデラ効果」が起こる原因は完全には解明されていませんが、いくつかの仮説があります。その一つ、「記憶の再構成説」。人間の記憶は、保存された情報をそのまま再生するのではなく、断片的な情報をもとに再構成されます。その過程で誤りが生じるというのです。さらにはこんな仮説もあります、「集団心理説」。多くの人が同じ誤った記憶を共有することで、その記憶が「事実」として強化される現象です。その他にも、似たような情報やイメージが混ざり合い、記憶が変化するのではという、「情報の混同説」。映画、テレビ、SNS などでも誤った情報が繰り返し流されることで、記憶が書き換えられたのではないかという、「メディアの影響説」もあります。こうしたマンデラ効果の事例は、私たちの記憶がいかに不確かで、社会的・文化的な影響を受けやすいかを示しています。身近なキャラクターや作品に関する記憶違いは、誰にでも起こり得る現象であり、記憶の不思議さを改めて考えるきっかけになりますね。

